

第2学年社会科指導案

日 時 平成27年11月6日(金)5校時
学 級 2年B組 男子12名 女子16名 計28名
授業者 教諭 村上 好永

1 単元名

〔地理的分野〕 日本の諸地域 「中部地方」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領社会〔地理的分野〕の内容「(2)日本の様々な地域」の「ウ 日本の諸地域 (ウ)産業を中核とした考察」に位置づけられる。直前に扱った大単元「世界からみた日本の姿」での学習をもとに、これまで「環境問題や環境保全」「人口や都市・村落」「歴史的背景」を中核とした考察を、それぞれ九州地方、中国・四国地方、近畿地方を具体例としておこなってきた。本単元では、わが国のなかでも産業が活発に展開されている地域の例として中部地方を取り上げる。

自然環境の違いから大きく「東海」「中央高地」「北陸」の3つの地域に分けられる中部地方は、それぞれの地理的条件に応じて特色ある農業や工業がおこなわれている。輸送機械を中心に日本最大の工業地帯を形成し、また多角的な農業がおこなわれている東海、養蚕・製糸業から精密機械・電子機械工業へと移行し、扇状地ではさかんに果樹が栽培されている中央高地、地場産業と水田単作に顕著な特色がみられる北陸、これら3つの地域のようすを、既習の自然条件と関連させつつ、映像や図表などの資料からダイナミックにとらえさせたい。

小学校第5学年で学習した日本の産業についての既習事項をふまえ、各地域の地理的条件に応じて具体的にどのような産業がおこなわれるのかを生徒たちは実感することになるだろう。次単元以降では「他地域との結び付き」「生活・文化」「自然環境」を中核とした考察をおこなうことになるが、本単元までに考察した内容を次単元以降の学習にしっかりとつなげられるようにしたい。

(2) 生徒について

発問に対する反応は良く、多くの生徒が積極的に考え発言しようとするなど、学習に対する取り組みは良好である。作業に時間のかかる生徒や集中的な取り組みは苦手な生徒がみられ、導入段階で興味関心を喚起しつつ、状況により個に配慮した支援を心がけたい。

4月当初の学習に関する調査では、社会科が「非常に好き」と答えた生徒が8人、「やや好き」が14人、「あまり好きではない」が5人であった。また、男子に比べて女子は歴史的分野よりも地理的分野が好きだという生徒が多かった。

これまでの学習では、おもに導入段階で身近な社会的事象を提示し、学習課題を確認した後に、話し合い活動をおこなったり文で説明・論述したりする場面を設定してきた。話し合い活動では、様々な視点を示しながら、全員が意見交流する場面を設定するように心がけた。その結果、学習意欲や技能・能力の面においてある程度の向上がみられた。一方で、自分の考えを自分の言葉で表現・記述する力を身につけることが課題である。

(3) 指導について

まず映像で地域の実情を視覚的につかみ(教材との対話)、設定した学習課題についての予想を立てさせることから北陸地方の産業にせまらせたい(自己との対話)。立てた予想について、さまざまな資料から検証をおこない(教材との対話)、グループごとに意見交流しながら、わかったことや新たな疑問について発表させる(他者の対話)。グループで出された意見を学級全体で交流し、学習課題に対するまとめを自分の文章で記述する(自己との対話)。再び学級全体で意見交流をおこなうことで(他者との対話)、思考や定着を深めていきたい。

3 単元の指導目標

地域の産業に関する事象を中核として、それを成り立たせている地理的諸条件と関連づけ、地域に果たす産業の役割やその動向は、他の事象との関連で変化するものであることなどについて考察することができる。

【観点別目標】

- (1) 中部地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察のしかたをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 中部地方の地域的特色に関する様々な資料から、必要な情報を適切に選択して、読み取ることができる。(技能)
- (4) 中部地方について、産業を中核とした考察のしかたをもとに、3つに大別される地域的特色を説明することができる。(知識・理解)

4 単元の指導計画及び評価規準

時	学 習 内 容	評 価 規 準	評 価 の 方 法
1	産業が活発な地域 ～中部地方をながめて～	中部地方を地形・気候の面から3つの地域に区分し、各地域の地理的な特色を説明することができる。(思考・判断・表現)	・ホワイトボード ・発言
		中部地方の位置と自然環境をおおまかにとらえ、構成する県の名称と県庁所在地、3つに区分された地域の名称をいうことができる。また、その範囲を示すことができる。(知識・理解)	・学習シート ・記述 ・小テスト
2	日本経済をリードする工業 ～中京工業地帯と東海工業地域～	中京工業地帯と東海工業地域の地域的特色に関心をもち、自動車を中心とした機械工業の発達について資料からとらえようとしている。(意欲・関心・態度)	・ノート ・発言
		分布図からおもな都市と業種を読み取り、また、生産額を示す図表から工業地帯・地域の特色を説明することができる。(技能)	・学習シート ・記述
3	先進的な第一次産業～東海地方の農業と水産業～	東海地方で集約的な農業や水産業が発展した理由について、提示された資料をもとに考えることができる。(思考・判断・表現)	・ホワイトボード ・発言
		おもな園芸作物の生産割合や日本の漁獲量を示す資料から、東海地方の農業・水産業の特色を多面的に読み取ることができる。(技能)	・学習シート ・記述
4	自然環境を生かした産業～中央高地の産業と暮らし～	中央高地の産業の特色を、自然的条件や歴史的条件をもとに考え、その利点を説明しようとしている。(関心・意欲・態度)	・ノート ・記述
		中央高地では、自然的条件や交通網の整備による首都圏との結び付きを生かした産業がさかんなことを説明することができる。(知識・理解)	・ホワイトボード ・発言
5 本 時	雪に育まれた伝統産業～北陸地方の産業と暮らし～	北陸の自然環境が農業や工業にあたえる影響について説明することができる。(思考・判断・表現)	・ホワイトボード ・発言
		自然条件や産業の状況を示す資料から、東海・中央高地との関連で、北陸の産業の特色を読み取ることができる。(技能)	・学習シート ・記述

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 北陸の自然環境が農業や工業にあたえる影響について説明することができる。
- ② 自然条件や産業の状況を示す資料から、東海・中央高地との関連で、北陸の産業の特色を読み取ることができる。

社会3

(2) 研究とのかかわり

校内研究主題「確かな学力を身に付けるための指導工夫のあり方～対話を生かした効果的な指導の工夫を中心に～」にせまるため、対話の場면을次の通り設定した。

- ①教材との対話：導入の場面で、教師が撮影またはインターネットから引用した画像を提示し、北陸地方のようすを視覚的に把握させる。また、予想を検証する場面で、北陸の自然や産業に関する図やグラフを提示し、学習課題を追究するための手がかりとして活用させる。
- ②他者との対話：予想を検証する場面で、提示された資料をもとに、グループで追究活動をおこなう。また、本時のまとめの場面で、学習課題に対して各自が記述した文章を発表させることで、意見交流を図る。
- ③自己との対話：学習課題設定直後の場面で、課題に対する各自の予想を立てさせる。また、追究後のまとめの場面で、本時の学習課題に対する各自のまとめを文章で記述させる。

④本時の展開

段階	学習活動	教師の支援と留意点 【対話場面】	形態	評価の観点【】と方法（） 資料○
導入 5分	1 北陸地方のようすを写した写真を見て、おこなわれている産業の概略をつかみ、学習課題を設定する。	【教材との対話】 ・教師が撮影した写真やインターネットから引いた画像をモニター画面に提示する。 ・何枚かは本時の中心資料として黒板に掲示する。	一斉	
北陸地方の産業は、自然環境とどのような関係があるのだろうか。				
展開 35分	2 北陸地方では、どのような自然条件を活かして、どのような産業が発展したのか予想する。 【自然】・雪が多い ・河川や平野 【産業】・水田単作 ・地場産業	【自己との対話】 ・提示された資料を参考にする。 ・学習課題に対する自分の考えをまとめる。	個人	【思考・判断・表現】 北陸地方で地場産業が発展した理由を、必要な資料を手がかりに考えることができる。 (観察、学習シート)
	3 各自で出した意見を、資料をもとに検証し、グループごとに検討する。検討し交流した意見をホワイトボードに記入し、発表する。	【教材との対話】 ・予想検証のための資料を提示する。 ・視覚的に理解しやすい資料を提示する。 【他者との対話】 ・提示された資料から読み取れることや新たに生じた疑問などをグループで交流するように促す。	グループ	【技能】 適切な資料を用いて予想を検証することができる。(発言、観察) ・気候：雨音図、年間積雪日数、最深積雪量 ・地形：河川、平野 ・産業：地場産業の分布、米の生産量、水田率 【思考・判断・表現】 各自の考えを、必要な資料を手がかりに交流し、表現することができる。(発言、観察、ホワイトボード)
	4 北陸地方の産業が抱えている問題点について知る。	・地場産業や水田単作について学習した内容を発展的に扱うが、深入りはしない。	一斉	
終末 10分	5 学習を振り返り、北陸地方の産業が自然環境とどのような関係がみられるのか、文章で記述する。	【自己との対話】 ・仲間との意見交流や提示された資料から、本時の学習課題に対する自分のまとめを、根拠を明らかにしながら文章で記述させる。 ・支援が必要な生徒には随時キーワード等を提示する。	個人	【思考・判断・表現】 北陸地方の地場産業や水田単作が、冬期間の多雪などの自然条件によって育まれたことを、自分の言葉で表現することができる。(学習シート)
	6 記述したことを発表し、意見交流を行う。	【他者との対話】 ・何人かに発表させる。	一斉	【表現】 ・本時の学習のまとめを、根拠をもとに自分の言葉で表現することができる。(発表、学習シート)